

次期「愛知県食育推進計画」の作成について

1 計画の性格と位置付け

(1) 計画作成の根拠

食育基本法 第 17 条 「都道府県は、(国の)食育推進基本計画を基本として、都道府県食育推進計画を作成するよう努めなければならない。」

(2) 計画の位置付け

- ① 県民一人ひとりが食の大切さを理解して、主体的に食育に取り組むための指針
- ② あらゆる場所や機会において、関係者が連携・協力して本県における食育に関する取組を総合的かつ計画的に推進するための基本

(3) 計画期間

平成 28 年度から
平成 32 年度までの
5 年間

2 現計画による取組の評価

(1) 食に関わる「体」の視点

【現状と課題】

- 朝食の欠食割合の中学生、高校生における改善
- 若い世代の食生活の乱れ
- 外食や中食の利用増加等食の多様化の進行
- 野菜摂取量が少ない
- 依然として高い食の安全に対する不安感

【取組の方向】

- 栄養バランスのとれた規則正しい食生活の実践
- 食の多様化を踏まえた取組の実施
- 野菜摂取量を増やす取組の推進
- 食の安全に関する信頼の構築

(2) 食に関わる「心」の視点

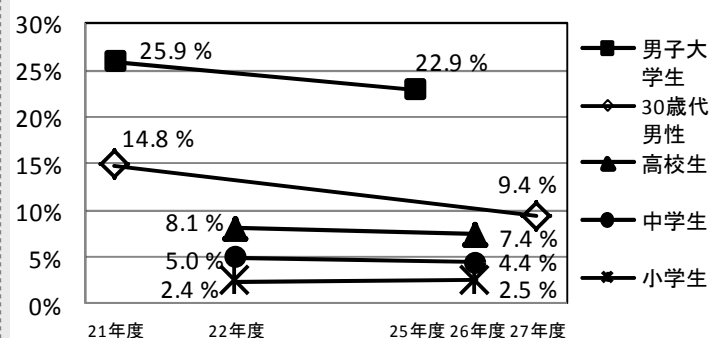
【現状と課題】

- 食を楽しむゆとりを確保する意識の浸透
- 体験や交流の機会の増加
- 「愛知を食べる学校給食の日」の実施等による学校給食での地場産物活用の進展
- 和食のユネスコ無形文化遺産への登録、日本の食文化が失われつつある状況

【取組の方向】

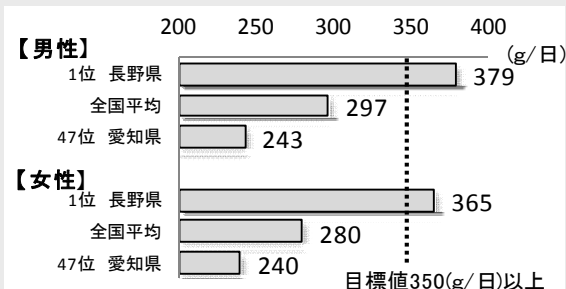
- 食を楽しむ時間の確保
- 体験や交流を通じた食の理解促進のための環境整備
- 地域の食文化の継承

■朝食の欠食割合



(県健康福祉部調査・県教育委員会調査)

■野菜摂取量



(H24 年 国民健康・栄養調査 厚生労働省)

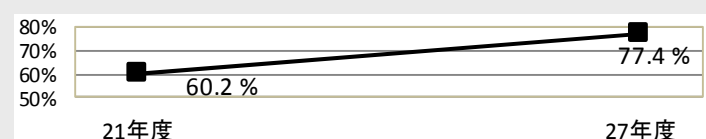
■主食・主菜・副菜をそろえて食べる頻度

年齢	頻度 (%)			
	ほぼ毎日	週に4~5日	その他	
【男性】	平均	65.5	11.6	22.9
20-29歳	31.9	20.8	47.3	
30-39歳	47.9	18.8	33.3	
40-49歳	59.2	15.1	25.7	
50-59歳	65.6	11.2	23.2	
60-69歳	75.1	8.3	16.6	
70歳以上	84.7	4.2	11.1	
【女性】	平均	69.7	14.2	16.1
20-29歳	47.1	22.1	30.8	
30-39歳	50.0	23.1	26.9	
40-49歳	65.2	18.0	16.8	
50-59歳	64.8	16.8	18.4	
60-69歳	84.5	6.0	9.5	
70歳以上	81.9	9.1	9.0	

(H26 年度 食育に関する意識調査 内閣府)

■家族や友人と一緒に楽しく食事をする人の割合

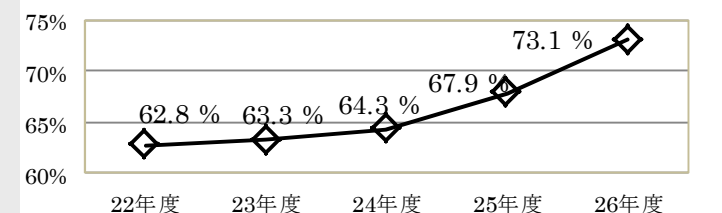
(1日最低1食、家族や友人と一緒に楽しく30分以上かけて食事をする人の割合)



(県健康福祉部調査)

■農林漁業体験学習に取り組む小学校の割合

(名古屋市を除く)



(県教育委員会調査)

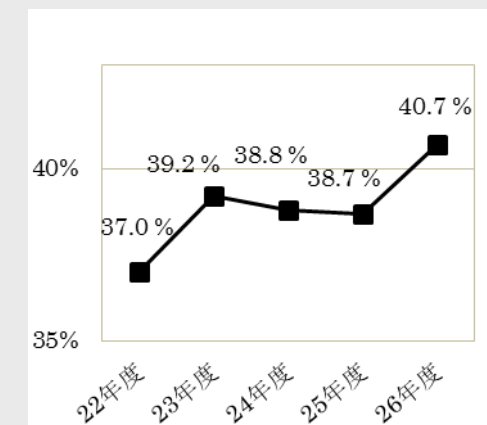
■農林水産業に親しむ活動に参加する県民の割合



(県政世論調査)

■学校給食において地域の産物を活用する割合

(全食品数に占める県産食品数の割合)



(県教育委員会調査)

(3) 食に関わる「環境」の視点

【現状と課題】

- 依然として発生している食品ロス
- 県産農水産物を優先して購入したいと思う県民の割合の増加など地産地消の進展
- GAP手法の導入組織・法人数が増加するなど、農林水産業や食品関連事業者における環境配慮の進展

【取組の方向】

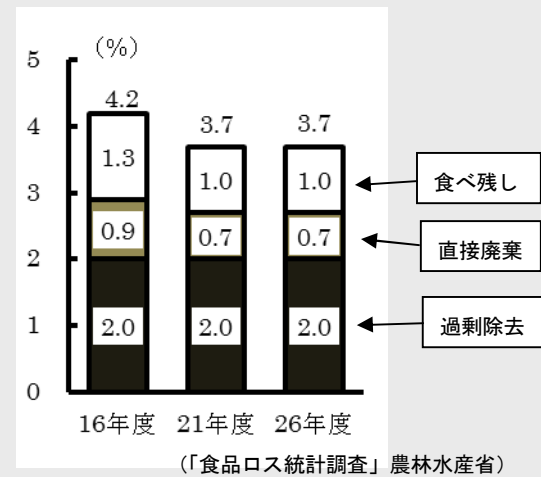
- 食を通じた環境への配慮の啓発
- 地産地消の推進と農林水産業の役割への理解促進
- 農林水産業や食品関連事業者における環境への配慮

■食品ロスの現状

我が国における食品ロスの量（年間）（農林水産省による H24 年度推計）

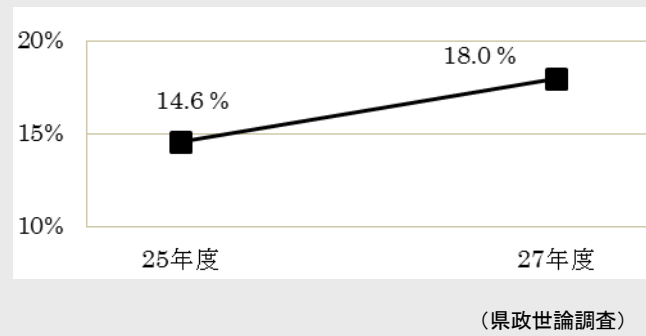
項目	一般家庭	食品関連事業者	計
食品廃棄物量	約 885 万 t	約 1,916 万 t	約 2,801 万 t
うち食品ロス量	約 312 万 t	約 331 万 t	約 642 万 t

■世帯食における食品ロス率の推移



■県産農水産物を優先して購入したいと思う県民の割合

（米、野菜、果物、肉、卵、魚の購入意向の平均）



■GAP手法の導入組織・法人数



「GAP手法」とは

農業生産において農薬や化学肥料の使用量などの管理を適切に行い、環境への負荷を軽減するとともに、農産物の安全性を確保する手法

(4) 食育を支える取組の視点

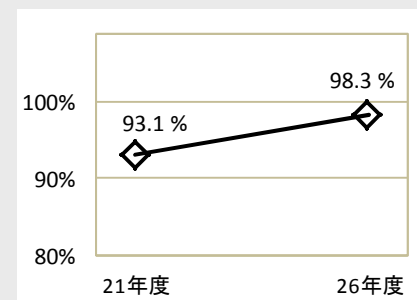
【現状と課題】

- 食育への高い関心、食育推進ボランティアから食育を学んだ人数の増加
- 県内全市町村で市町村食育推進計画の作成
- いいともあいち運動の認知度の低迷

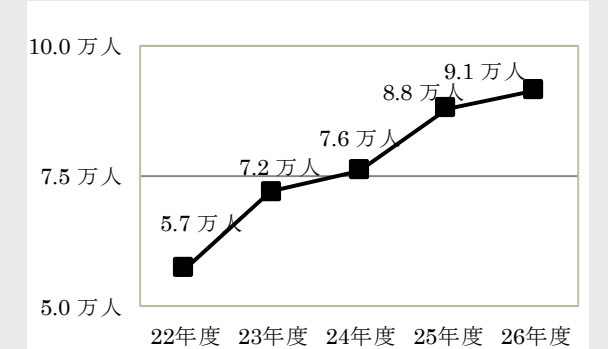
【取組の方向】

- 食育を推進するための環境づくり
- 人材の育成と活動の充実
- いいともあいち運動の推進

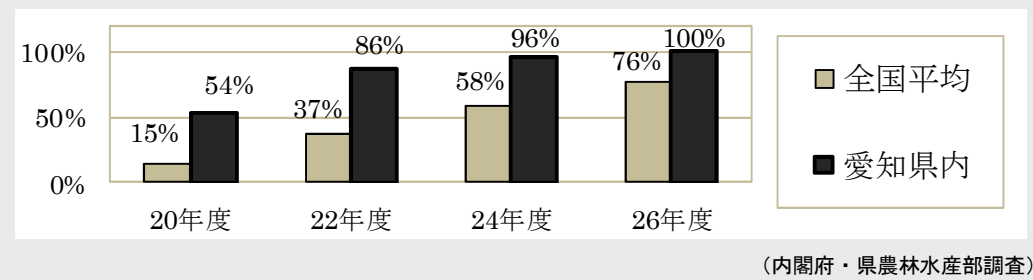
■食育に関心のある県民の割合



■食育推進ボランティアから食育を学んだ人数



■食育推進計画を作成・実施している市町村の割合



■「いいともあいち運動」を知っている人の割合

